

# 総合科学の基礎C 哲学・思想の基礎

学部共通科目(2017年度)

第11回 倫理的な正しさとは何か  
現代リベラリズムの立場  
質問に対する回答

# 功利主義の快樂計算について

- …私は功利主義は個人主義的だと考えていました。…実際は、ベンサムは功利主義はどちらかと言えば社会主義的なもの〔集団的なもの？〕で「最大多数の最大幸福」がメイン的なものでした。どちらかということと集団の幸福に重きを置くような思想を持つベンサムですが、彼が唱えた快樂計算において受ける快樂の量が同じ場合、個人と社会とで快樂計算の結果が異なることはあり得るのでしょうか？この質問をした理由は、ベンサムは集団の

幸福を重視しているので、快樂計算の結果が集団と個人とで違ってくる可能性があると考えたからです。とはいえ私は結果は同じになると考えています。理由は、結局は快樂を受ける量は同じなのだから、結果は同じになると考えたからです。実際はどうなのでしょう？

- 快樂計算は単純ではない場合があります。ロールズに引きつけて快樂計算を考えてみます。ロールズやサンデルの批判では、功利主義においては快樂計算によって、個人の快樂は集団の快樂の中に解消されたため、

個人の特定の快樂は無視されることがあるというものです。しかし、このような批判が成り立たない場合もあります。無知のヴェールかぶって、どのような社会制度を人は選ぶかという場合、自分の不利にならないような社会制度を選ぶはずだということを示したのが、最小値最大化規則(マクシミンルール)です。これは功利主義的に考えても成り立つ考え方です。自分が誰になるかわからない状態で効用を最大化させようとするとき、最低限度以上の生活が保障されるような社会を選ぶことはありうることです。個人の効用も社会全体の効用も同じになります。

# 正しさと善との訳語について

- 今回の授業では倫理的な正しさについて学んだ。その中で一つだけ気になったのは、「right and wrong」の訳についてだ。授業プリントでは「正不正」と訳していたが、翻訳では「善悪」となっている。この2つの訳の違いはなんなのだろう。単純に英語を直訳しただけなのか。それとも意図があつてのことなのか。僕の考えでは、善悪という訳でもよいのではないかということだ。正というのは正しいことで

あって、善と言いかえられるし、正の逆の不正は善の逆の悪と言いかえられるからだ。日本語というものは、一つ単語を入れかえると意味ががらっと変わってしまう言語なので、扱いが非常に難しい。しかし、そこが日本語のおもしろいところでもある。

- これは日本語の問題というよりも、もともと欧米語でも善と正しさが同じ意味で用いられる場合が多いことから生じています。この授業では、できるだけこの混乱を避けるためにこの二つを区別して扱います。

# 正しさと善の関係について

- 正しさの概念は善に優先し、善とは独立に与えられるとはいったいどういうことなのだろうか。
- ①正しいことをする＝善ではないことが不思議に思えたから。
- ②正しいという範囲のようなモノの中で行われたことが善と定義される。つまり、正しいことがあった上で、行う行為を善と見なすことが可能だから。「正しいことをする＝善」とはいえない。
- 善は多様に使われます。ロールズのリベラリズムでは多様な善を認めます。民主主義が多元的であるとは、特定の善を押しつけないことです。その上で、

いろいろな善がある中で、公正なものを正義と呼ぼうというわけです(公正としての正義)。

- ①「正しいこと」と「善」は別であるという意味です。正しいことをする＝善は成り立ちます。
- ② 善と言えるものの範囲を「正しい」が決められていることになります。この場合も正しいは「公正である」という意味になります。



- ③正しさというモノはそもそも住む国の政治の体制や方針、その国の文化で大きく異なってしまうもの。だから国々によって正しさの中身も異なってしまう。例えば、日本では殺人は善ではないが、紛争の起きている国々で、国を護るために人を殺すことが善でないか、と問われると微妙な所だ。つまり、正しさとは、固定されない動くケースのようなモノで、そのこと[?]を善と見なしているように思えたから。
- 戦争のような特殊な場合を直ちに一般化することはできません。どのような国や文化であれ、共通する正しさを求めようとするのが

重要です。このような思想にコスモポリタニズムやグローバルエシックスがあります。それは、人は人間としてどこに(どの国に)生まれても、道徳的に等しい権利や尊厳をもつという思想です。特に、貧困問題を扱うときに、重要な正義としてグローバルジャスティス(グローバルな正義)が挙げられます。

# 善と善意志の違いについて

- …善意志の特徴について解説してもらいたいことがある。先生は説明で、善意志＝正義であるが、善≠正義であると言っていたが、善と善意志はどのような違いがあるのか。善意志の特徴の一つ目に、善意志は無条件につねにそれ自体で善であるとあったため、善＝善意志と言えるのではないかと私は考えた。どのように違うのか教えていただきたい。
- ロールズに対する批判はありますが、ここでは、ロールズのカント解釈を採用しています。

- 善意志と善の違いについての質問です。善意志とは、善やその他の比較物とは独立した「正しさ(right)」であるということですか？「正しさ」の概念が善に優先し、善とは独立に与えられた原理であるなら、善意志＝正しさであるのかどうかわかりにくかったです。私は善意志とは、カントいう動機ではないのですか。
- 前の回答と同じになります。善意志が動機という言い方で説明されることもあります。ロウルズのカント解釈に従います。

# 無知のヴェールについて

- …人々が社会のどの位置に自分がいるのか分からない状態で同意する原則というのは公正なものである。無知のヴェールをかぶっている人はみな自分を少数派と考え、最大多数の幸福のための犠牲となることを望まず、自由競争やリバリタリアニズムを選ぶ人もいないという考えであった。無知のヴェールをかぶっている人がみな「自分が抑圧された少数派かもしれない」と考えるとの根拠は何なの

だろうか。ロールズがなぜそう考えたのかがよく分からなかった。そうは考えない人もたくさんいるのではないだろうか。またそういう人が1人でもいれば利己的な考えのもと原則を完成させてしまうのではないだろうか。

- こういう批判もたしかにあります。無知のヴェールのポイントは、もしかしたら自分は少数派になるかもしれないという状況を考えて、より合意の得やすい事柄を人は選択するという論法です。自分の不利にならないような制度を選ぶ最小値最大化規則(マキシミンルール)を指しています。

# 格差原理について

- …格差原理は社会で最も不遇な人々の境遇を改善するような不平等を許容する。そして、恵まれた立場の人々は不遇な人々の状況を改善するという条件に基づいてのみ、自分達の幸運から利得を得ることが許されるというが、これで不遇な人々の状況を改善することができるのか。不遇な人々は不遇である原因が異なるため、不遇な人々を分け隔てなく支援することにはならない。

- 格差原理自体は、不遇な人々の状況を具体的にどのように改善するかは述べていません。それを具体的に政策に反映するのは政府の政策(社会保障政策)です。



# 格差原理と社会主義

- 「格差原理は、生まれつきの才能の分配・分布をいくつかの点で共通の資産と見なし、この分配・分布の相互補完性によって可能となる多大な社会的・経済的諸便益を分かち合おうとする、ひとつの合意を実質的に表している」(ロールズ『改訂版 正義論』136-137ページ; p87)とありますが、これは社会主義の思想にもつながる可能性が高い、ということでしょうか(授業の中では、社会保障制度のお話が

ありましたか)？なぜなら、個人の生まれつきの才能の分配、分布を共通の資産と見なす、というところなどは、社会主義の基本的な思想と共通するからです。その辺りのことを、また教えてください。

- ・格差原理には社会主義に近い面もありますが、最大の違いは格差原理が私有財産を認めることです。最低限の財産は個人の自尊に必要なだとローズは考えます。

- …特にこの格差原理の内容について興味を持ったことがある。それが、サンデルによると「天賦の才の持ち主には、その才能を訓練して伸ばすよう促すとともに、その才能が市場で生み出した報酬は共同体全体のものであることを理解してもらおうというものである」という点だ。この点に注目すると、ロールズの「公正」をもとにした「正義」は社会主義経済において成立するのではないのかということが想定された。確かに、社会主義は富の分配をし、平等であり、ロールズの考える、「公正」に

もとづく「正義」は、資本主義経済よりも成立しやすくなるであろう。しかし、この点において言えば、このロールズの「正義」については、これから挙げるような問題点を持つのではないか。つまり、天賦の才を持つ人にとっては、他の人よりもより多くの生産を生み出しているため、これを全体の利益にすることによって、他よりも劣った人と同等の利潤にしなければならない。その点において天賦の才の人にとっては不平等が生じてしまう。つまりは、成立しやすいはずの社会主義においても、ロールズの「正義」というもの

- は完全には達成できないという決定的な弱点があるような印象を持った。
- 社会主義において格差原理がどう捉えられるかを考えた良い質問です。社会主義では、能力は社会全体の利益に奉仕するものとされるために、天賦の才が伸ばされにくく、単なる国威発揚のために利用されることになるでしょう。格差原理は、個人の天賦の才やそこから得られる報酬を認めた上で、それが社会の他の人びとにも資する点を主張します。